

外務省主催
平成28年度在外安全対策セミナー
在バングラデシュ日本国大使館

安全対策の基本
～平素からの準備と有事の対応～

2016年7月

SOMPOリスクアマネジメント株式会社

Copyright © 2016 Sompo Risk Management & Health Care Inc

資料目次

1. バングラデシュのリスク概要

- ①外務省危険情報
- ②ダッカにおける主な事件
- ③犯罪統計
- ④(参考)バングラデシュの犯罪組織

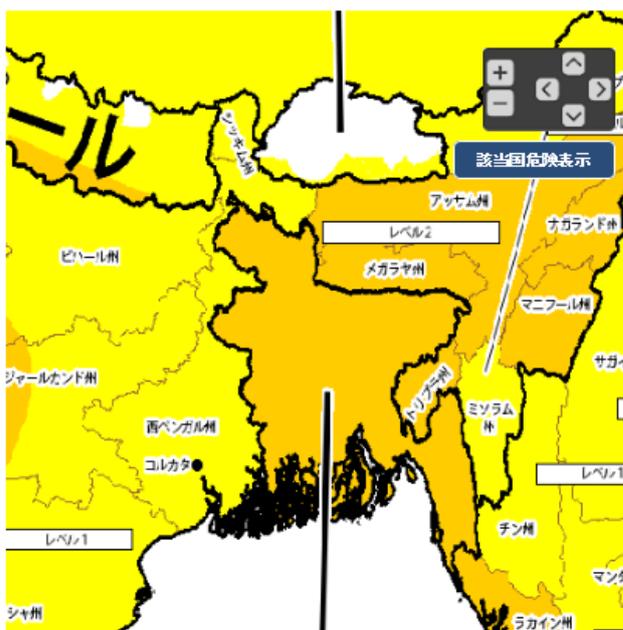
2. 平時からの準備と有事の対応

- ①テロへの備え
- ②デモ・暴動への備え
- ③車での移動時の留意点
- ④出張者や第三国へ出張時の対応
- ⑤住宅での備え
- ⑥ホテルでの備え
- ⑦誘拐への備え
- ⑧企業組織としての備え
- ⑨街頭犯罪予防対策

1. バングラデシュのリスク概要

Copyright © 2016 Sompo Risk Management & Health Care Inc

バングラデシュおよび周辺国の危険情報



- 凡例：
- 「レベル1：十分注意してください。」
・その国・地域への渡航、滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。
 - 「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」
・その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。
 - 「レベル3：渡航は止めてください。(渡航中止勧告)」
・その国・地域への渡航は、どのような目的であれ止めてください。(場合によっては、現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。)
 - 「レベル4：退避してください。渡航は止めてください。(退避勧告)」
・その国・地域に滞在している方は滞在地から、安全な国・地域へ退避してください。この状況では、当然のことながら、どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

(出典：外務省海外安全HP)

- チッタゴン丘陵地帯を除く全ての地域(首都ダッカを含む)：
「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」(継続(テロに対する特別警戒))
- チッタゴン丘陵地帯：「レベル2：不要不急の渡航は止めてください。」(継続)

ダッカにおける主な事件

- 2016年7月7日
Sholakiaにおけるイード祭を狙った襲撃事件で3人死亡
- 2016年7月1日
Gulshan地区のレストランで銃撃・人質事件が発生し、22人死亡
- 2016年4月25日
LGBT活動家・編集者が襲われ死亡
- 2015年10月24日
シーア派のアシュラ行事に手製爆弾が投げ込まれ1人が死亡
- 2015年9月28日
Gulshan地区でジョギング中の援助団体関係者が銃撃され死亡
- 2015年8月7日
Goran地区で世俗派のブロガーが刃物で殺害される
- 2015年3月31日
Begunbariで世俗派のブロガーが刃物で殺害される

バングラデシュにおける犯罪

ダッカは犯罪発生率が高い

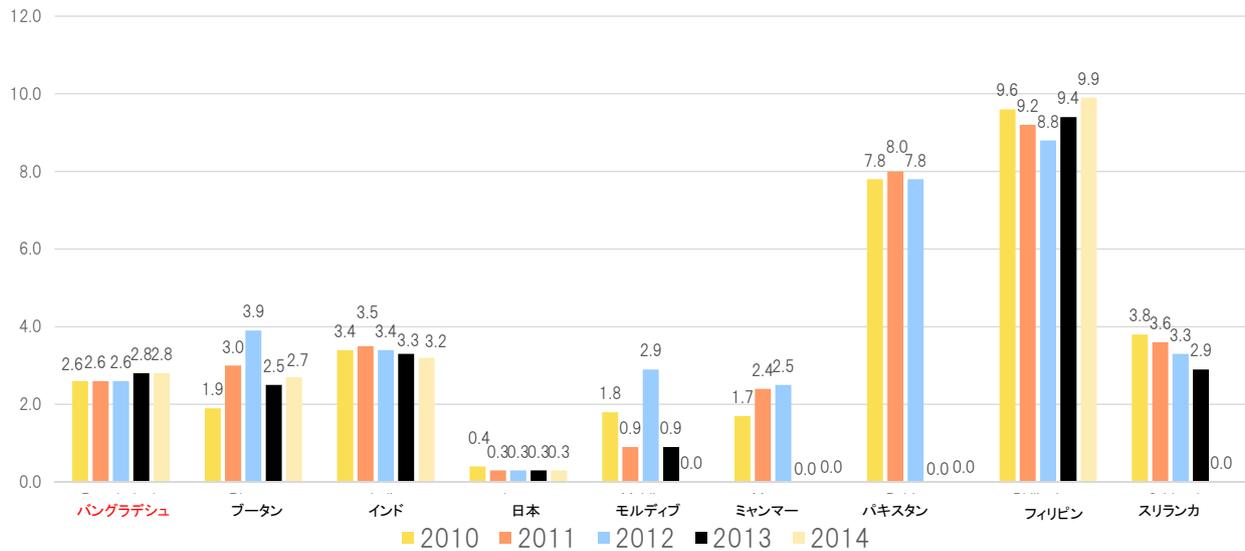
- 警察の対応はその時によって大きく異なる
- 多くの犯罪は未解決に終わる(犯人を特定できない、起訴できない)
- バングラデシュの犯罪統計は国連に提供されないことが多い

最も注意すべきは路上犯罪

- 路上犯罪は夜になると発生率が急に上がる
- 最も多いのは計画性のない路上犯罪
- ひったくり、スリ、強盗の被害が目立つ
- 発生頻度が高いのは、混雑した商業地区など
- 外交施設、駐在員の生活圏内でも発生
 - グルシャン地区(特にグルシャン2Circle)
 - ボナニ地区
 - バリダラ地区

バングラデシュの犯罪

各国の殺人事件発生率(人口10万人当たり)



(出典: 国連麻薬犯罪事務所 (UNODC))

※ブータンの2007年、モルディブの2014年、ミャンマーの2013～2014年、パキスタンの2013～2014年、スリランカの2014年におけるデータは存在しない

参考) バングラデシュの犯罪組織

ジャマトウル・ムジャヒディン・バングラデシュ (JMB)

- 1990年代に設立
- バングラデシュをシャリアに基づく国家にすることを標榜
- 2005年に非合法化
- 2005年に手製爆弾を使用した連続テロ事件の犯行組織
 - ・全土の300カ所以上で500発近い爆弾を爆発
 - ・500発は30分以内に爆破された
- 近年の世俗派、宗教関係者、識者の殺害事件への関与したとされる
- JMBの古参メンバーがISILのための勧誘活動を実施しているとの情報

参考) バングラデシュの犯罪組織

ハルカトウル・ジハード・アル・イスラミ・バングラデシュ (HUJI-B)

- アフガニスタンで組織されたHUJIのバングラデシュ支部として1990年代に設立
- HUJIはバングラデシュ支部をインドへの攻撃拠点としての活用の可能性
- チッタゴン丘陵地帯でテロリスト訓練キャンプを運営の可能性
- 1999年 著名な詩人の殺害を計画
- 2000年 ハシナ首相暗殺計画(未遂)に関与との情報
- 2001年 バングラデシュの新年を祝う祝典で爆弾テロ 犯人を含む10人死亡
- 2004年 アワミ連盟の集会で手榴弾攻撃 24人死亡
- 2005年 政府がHUJI-Bを非合法化
- 2014年～2016年 当局による取締り強化
 - 複数のHUJI-Bリーダー格のメンバーを逮捕 訴追
 - 一部の被告には2004年の事件に関与したとして死刑判決
 - その他には終身刑など

参考) バングラデシュの犯罪組織

イスラム・レバントのイスラム国 (ISIL)

- 2015年1月、ISILはKhorasan地域への活動地域各段を宣言
 - ・アフガニスタン
 - ・パキスタン
 - ・インド亜大陸を含む周辺地域
- ISILは南アジア地域での活動強化を画策している
- インドでの活動の拠点としてバングラデシュを重要視している
- ISILの機関紙「ダビク」の最新号ではバングラデシュにおけるリーダーのインタビュー記事を掲載
- バングラデシュで発生した外国人、少数派宗教関係者、世俗派ブロガー殺害事件で犯行声明

参考) バングラデシュの犯罪組織

アンサルラ・バングラ・チーム (ABT)

- バングラデシュの過激派組織で、シャリア(イスラム法)に基づく国家の樹立を標榜している
- 2013年～2015年にかけて、複数の世俗派ブロガー殺害事件に関与
- 大学生に対する勧誘活動を活発に実施している
(特に英語が堪能な学生・SNSに詳しい学生)
- 2015年4月に非合法化された
- イスラム政党「ジェマート・エ・イスラミ(JeI)」や、AQISと関係があるとされる

参考) バングラデシュの犯罪組織

インド亜大陸のアルカイダ (AQIS)

- 2014年、アルカイダAQがインド亜大陸支部の設立を発表
- AQ活動地域の南アジアへの拡大を狙う(ISILへの対抗意識か)
 - ・パキスタン
 - ・ミャンマー
 - ・バングラデシュ
 - ・インド
- 昨今の世俗派、宗教関係者を標的とした暗殺事件で犯行声明
- 地元のテロ組織「ABT」や「JMB」の犯行に便乗して犯行声明を出した可能性も

アンサール・アル・イスラム (AAI)

- AQISのバングラデシュ支部であると主張
- AAIは世俗派のブロガーや学者など、「イスラムの敵」とされる市民の殺害に関与したとの報道も
- 2014年11月の大学教授殺人事件の数時間後、AAIのFacebookアカウントが立ち上がり、教授殺害に関する犯行声明を出した
- 治安当局の一部には、AAIが独立した組織であることを疑問視する声も
- AAIは非合法組織ABTが別名として使用している可能性も

2. 平時からの準備と有事の対応

テロ対策(安全対策)の基本

重要

- 常に周囲360°に注意を払い人の動きなどを把握しておく
- 不審を感じたら、「直感」を信じて逃げるなどの行動に移す
- 最大の過ち

「自分が被害に遭うことなどあり得ない」=油断と隙き

行動上の3原則

- 目立たない
- 用心を怠らない
- 行動を予知されない

テロへの備え

テロの標的となり得る場所の回避

- 軍・警察関連施設、欧米関連施設にはなるべく近寄らない
- 欧米人の多く集まる場所、時間は避ける
- 原則として、公共交通機関は利用しない
- 空港では速やかに建物内に、チェックイン後は速やかにセキュリティを通過する
- 過去に市場でテロが発生している国では市場は避ける
- 集会や抗議行動が行われていたら速やかにその場から立ち去る
- ホテルロビーに長居しない、在室中はカーテンを閉めておく

テロへの備え

レストランやホテルなどで「爆弾テロ」の被害を受けないために

- 爆弾が仕掛けられやすい場所を避ける
 - ・多数の外国人が集まる場所と時間
 - ・レストランやロビー付近
- 構造物等の陰など隠れられる場所を確保
(爆風を直接受けない場所)
 - ・柱の陰、壁の奥、個室
 - ・非常口の近く
 - ・ガラスから遠い位置
 - ・2階以上のレストラン(1階の方がリスクが高い)

テロへの備え

「襲撃(銃乱射)」事件で被害の可能性を減らすために

- 基本的な考え方
 - 常に自分の近くにある出口・非常口を確認しておく
- 安全な避難経路が確保できる場合
 - ・避難する人たちが犯人が待ち伏せしていないか、安全性を慎重に確認しながら避難する
 - ・何も持たずに避難する
 - ・可能であれば近くにいる人の避難を手助けする
 - ・犯人に間違われぬため、手には何も持っていないことが常に見て分かるように行動する
 - ・警察官に遭遇したら指示に従う
 - ・負傷者は動かさない

デモ・暴動への備え

「デモ・暴動」の被害を受けないために

- 事前情報をよく確認する、デモが予告されている場所には行かない(裁判の後等)
- デモや暴動に遭遇した場合、その場からすぐに離れる、安全な場所へ避難する
- 乗車車両への投石や放火の危険性がある場合は、下車して遠ざかる
- すぐに逃げるのが困難な場合は、事態が落ち着くまで安全な場所を探して待機し、必要に応じて助けを求める

(事前の備え)

- 通信手段の確保
携帯電話以外に、衛星電話、無線などのバックアップの検討・準備を行う
- 籠城に向けた準備
自宅・会社で籠城することに備え、食糧、飲料水等の備蓄をする
- 退避に向けた準備
 - 国外退避計画を策定し、安全な移動手段を確保する。(必要に応じてセキュリティ会社の支援を受ける)
 - ドルなどの現金準備、最低限持ち出す物をリスト化し、バッグにまとめておく

車で移動時の留意点

- 現地人運転手に安全運転の意識を植え付ける
- ファースト・エイド・キット(救急箱)、飲料水を全ての車両に備える
- 緊急連絡先を紙で常に携帯する(自社、大使館、セキュリティ会社など)
- 飛散防止フィルムの貼付けを行う

(地方への出張の場合)

- 大使館に事前相談し、訪問可能な地域かどうか確認する
- 出張する場合は、相応のセキュリティ対策を講じる(防弾車、武装警備、複数台で警備、当局警察の協力要請など)

出張者や第三国への出張時の対応

たびレジへの登録

海外へ渡航される皆様へ

「たびレジ」に渡航予定を登録する ▶

たびレジ
外務省海外旅行登録「たびレジ」

例えば…

- 家族で2週間海外旅行に行くことになった
- 1ヶ月間海外出張することになった
- 修学旅行で5日間海外に行くことになった

3ヶ月未満の渡航を予定している方 >>

「ORRnet」に滞在予定を登録する ▶

外務省
ORRnet
Overseas Resident's Registration
在留届電子届出システム「ORRnet」

例えば…

- 海外に転勤になった
- 海外に永住することになった
- 半年間留学することになった

3ヶ月以上の滞在を予定している方 >>

外務省では、海外に渡航される皆様の安心と安全のため、2種類の渡航登録サービスを提供しています。登録して頂いた方には、在外公館からの緊急一斉連絡メールなどをお届けすることができます。海外での思わぬトラブルを未然に防ぐため、是非ご利用ください。

登録しましょう!

出典: 外務省海外安全ホームページ
「海外へ渡航される皆様へ」

20

Copyright © 2016 Sompo Risk Management & Health Care Inc

住宅での備え

(住宅選択の際の留意点)

- 外部からの侵入を防ぐためのセキュリティ(外周壁、鉄条網・忍び返し、警備員、番犬)
- 駐車場への入口のセキュリティ(監視カメラ、ゲート、シャッター)
- 警報システム、夜間の照明、防火設備
- 泥棒の目標とならない(家主の人間性、恨みを買わない、自身の情報管理)
- 独立家屋の場合、三方が在留邦人や外国人居住家屋の環境が好ましい
- 工事中の侵入盗にも留意する(窓グリルは一般的に細い)

(来訪者の対応)

- 来訪者の氏名、目的を必ず確認する。確認は門番・警備員を通して行う
- 部屋のドアは常に鍵・チェーンをかけ、訪問者が来てもドアを無造作に開けずのぞき穴で相手を確認する
- 非常口は実際に歩いて避難できることを事前に確認しておく

住宅での備え(安全性のチェック)

外務省海外安全HPにある「海外赴任者のための安全対策小読本」のチェックリストを使用して、家の安全性をチェックしてみましょう！



(出典:外務省海外安全ホームページ
「海外安全お役立ち情報」)

例)住宅の扉の構造

- 最低限の備え
 - 強固な材質のドア
 - ダブルボルトのロック
 - チェーン
 - 覗き穴

ホテルでの備え

- 警備体制のしっかりしたホテルを選ぶ(できるだけ3-6階、通りに面していない部屋を)
- ホテルのロビーやレストランでは置き引き等の犯罪被害に遭いやすいので長居しない
- 必要以上に自分に関する情報は話さない
- ホテルの部屋のドアは常に鍵・チェーンをかける
- 『Do Not Disturb』のサインを掲げる
- 訪問者が来てもドアを閉めたまま対応する
- 不審に思ったらドアを開けずに電話でフロントに確認する
- 貴重品はSafety Boxに入れておく
- 非常口を確認しておく

誘拐への備え

犯行グループ事前に誘拐候補の身辺調査・監視活動を行い、ターゲットを決める。警戒心が高い人は、誘拐候補リストから除外される。警戒心を示すには、以下の対応を行う。

- 目立たない(服装、車など)
- 予測可能な行動(パターン化)はしない
(自宅を出る時間、目的地の到着時間、移動ルートをこまめに変更)
- 行動予定に係る情報管理を徹底し、口外しない
- 家や会社の周辺では監視活動がないか周囲に敏感になる
- 通勤途中で助けを求められる場所を調べておく
- 不審な電話があった場合は報告するよう、スタッフを教育する
(とくに出張者や第三国へ出張時は)
- 荷物用タグは、社名を含めず、氏名と携帯電話番号のみにする
- 流しのタクシーは使用しない(タクシーは空港やホテル指定のみ)

Express Kidnapping(短時間誘拐)対策

■ 予 防

- 夜間は一人で外出しない
- ATMは夜間に使わない。日中、建物の中にあるATMを使う
- レストランやバーを出るときは、監視している人物がないか確認する
- 短時間誘拐が多発している場所では目立たないようにする
- 誘拐されたら誰に電話すべきかを覚えておく

■ 誘拐されたら

- 犯行手口を知る
 - ・ATMを渡り歩く
 - ・少額の身代金で解放される
- 落ち着いて対応し、犯人の指示に従う
- 単なる強盗が短時間誘拐に発展することもある
- 預金額など資産に関する話や、住所、勤務先、役職などの情報は明かさない

■ 現地リスク調査

- セキュリティ・コンサルタントを活用した現地リスク調査

■ 情報収集

- 大使館・セキュリティ会社などからの情報収集

■ 危機管理マニュアル

- 有事を想定した現地用危機管理マニュアルの策定
- 現地用緊急国外退避計画の事前策定

■ 危機管理訓練

- 現地・本社と共同で有事発生時を想定した訓練の実施

■ 警備員

- 訓練を受けた運転手、非武装警備員、武装警備員、防弾車
- 現地では目立たない車両、運転手、武装警備員を推奨（非番の警察官など）

■ トラッキング

- 活動地域によっては、トラッキング・サービスの導入を検討（パニック・ボタン付き）

街頭犯罪予防対策

■ 強盗に遭遇した場合の動作と

被害を最小限に抑えるための対応

- ① ゆっくりと両手を上げ、抵抗する気がないことを犯人に示す
- ② ゆっくりとした動作で犯人に現金の入っている場所を示す
(急に動くと犯人に武器を取り出すと勘違いされ攻撃される危険性がある)
- ③ 犯人の様子に注意しながら、ゆっくりとした動作で現金を取り出す
- ④ 現金を犯人に渡し、ゆっくりと犯人から離れる

■ 駐車場はリスクが多いので注意

- 車両と車両の間は犯罪者にとって絶好の隠れ家
- 来店者はお金や商品を持っており、格好の標的
- 監視カメラなどもなく監視が手薄、逃走しやすい

■ 駐車場での留意点

好ましい駐車場所

- 目的地入口の近く
- 警備員の立哨場所近く
- 照明があり、見通しがいい場所
- 監視カメラ設置場所近く